



# “DRYPOINT” Masuo Ikeda in 1960s

## “ドライポイント” 池田満寿夫の60年代

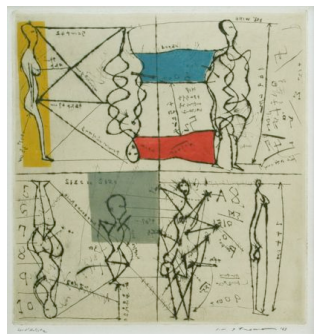
—— 自由な線、固有の性格を持った線、独立した線、無数の音の鳴る弦のような線 ——

1960年に東京国際版画ビエンナーレ展で受賞した『女・動物たち』の頃から1960年代半ば頃まで、版画家・池田満寿夫が「線」に没頭した時代、常にともにあったのがドライポイントでした。それは直接銅板に線を刻んでいくという、銅版画のなかでもっとも単純な方法です。

腐蝕という手間ひまとは無縁であり、即興性や無意識的なイメージを優先できる点に愛着を持った作家は、半角刀を用いて、にじんだようにささくれ立った強い黒線を軽やかに刻みました。

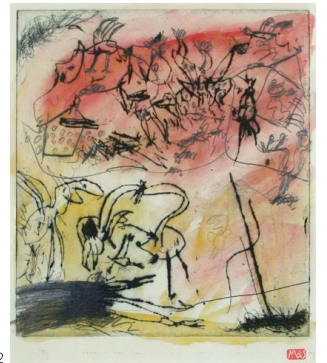
一方でなかば自動的な、あるいは落書き的な線や形体が一見とても自由に見えながら、つねに手のくせや思考のくせによって類型化から逃れられないのではないかという疑いも手放すことはしませんでした。実際には銅版の完成までに、アイデアのメモ的なデッサンを複数さしはさみ、無意識と意識との間の微妙な葛藤のなかから作品が生まれています。そしてそのバランス感覚にこそ、作品に希有な個性を与えた本質的な何かがあったようです。

やがてそうした試みのなかから「線的なものは必然的にユーモアに接近する」という確信が引き出されていきます。色彩によってではなく、線によってのみ表現できる「ユーモア」という特殊な領域。画面にはアルファベットの単語がおどり、動物や人間によって見知らぬ物語が演じられるようになります。



青・赤・黄の3色を基調とした最小限ながらポップな色彩の世界に、これもまたポップアート的なスーツや靴などの日常的な品々をまぎれこませることでイメージネーションはますますふくらみ続けていきました。

即興性と物語性。この一見すると相反する両極を行ったり来たりしながら、豊かなイメージの群れを量産した実り多き時代の作品10余点を展示します。いつの間にか腕にからみついている糸のような、ドライポイントの「線」による饒舌な世界です。



# “DRYPOINT” Masuo Ikeda in 1960s

## “ドライポイント” 池田満寿夫の60年代

- 洞くつの歌 Song in the Cave 1956 エッチング、アクアチント ed.30
- (1) 女・動物たち Woman, Animals 1960 ドライポイント、アクアチント ed.15  
横たわる婦人 Lying Woman 1961 ドライポイント、アクアチント ed.20
- (2) 動物の婚礼 (エスキース) Wedding of Animals 1962 ドライポイント、鉛筆、水彩
- (3) サイズはサイズ Size is Size 1963 ドライポイント、ルーレット ed.20
- (4) 化粧する女 Lady at Her Make-up 1964 ドライポイント、ルーレット、エッチング ed.20  
素晴らしい訪問者 Wonderful Visitor 1964 ドライポイント、ルーレット ed.20
- (5) 聖なる手 2 Sacred Hands, 2 1965 ドライポイント、ルーレット、エッチング ed.20
- (6) ロマンチックな風景 Romantic Scene 1965 ドライポイント、ルーレット、エッチング ed.20  
鏡の中の青 Blue in the Mirror 1965 ドライポイント、ルーレット、エッチング ed.30  
ブダペストからの自画像 Self Portrait from Budapest 1968 リトグラフ ed.25



2010年9月10日 | 金 | - 9月15日 | 水 |  
ギャラリー石榴 南青山Room 11:00am~7:00pm  
東京都港区南青山1-11-39 1139 南青山2F Tel & Fax 03-6438-9690  
E-mail aoyama@g-sekiryu.com

2010年10月2日 | 土 | - 10月11日 | 月 |  
ギャラリー石榴 松本 10:00am~6:30pm  
長野県松本市筑摩2-17-10 Tel 0263-27-5396 Fax 0263-27-2351  
E-mail with-you@g-sekiryu.com

URL <http://www.g-sekiryu.com>